

栄養クリニック開設を振り返って

栄養クリニックにとって2回目の事業報告書を書いていて、もう1年経ったのかという感慨にふけております。昨年の今頃は、2009年7月の開所から、まだ何ヶ月しか過ぎていない頃で、本当に何かなにやらわからないうちに走っていたような気がします。

この1年を振り返って見ますと、いくつか大きな変化がありました。初年度は、開設に関わった数名の教員のみがクリニック指導教員を務めました。しかし2年目からはできる限り多くの先生方のお力添えを得たいと、食物栄養学科の先生方にご相談しましたところ快諾が得られ、21年度は食物栄養学科の管理栄養士教員全員がクリニック指導教員となりました。その結果、会議でも多様な意見が出てきて、盛り上がっておりますし、また人数が増えたら当然のことですが、各々の得意分野からいろいろな提案が得られ、随分栄養クリニックの活性化につながったものと感じております。

また新たに、本願寺新報に、食物・栄養に関する記事を連載する機会を与えられました。何とか1年継続することができ、望外の好評を得て、さらに連載が続くこととなりました。これもメンバーが増えたおかげで、随分対応がしやすかったと思います。

この4月より、3年目の年度が始まります。これまでの業務内容を維持・発展させていくのは当然のこととして、さらに新規の企画を進めていきたいと考えております。まだこの原稿を書いている時点では、具体的なことを申し上げられる段階にはありませんが、本学は東山区唯一の4年生大学であり、また本学が東山区と協定を結んでいることを生かし、地域との連携をさらに強化したいと思っています。

栄養クリニックが何とか業務を遂行できていますのは、各方面からの多大なご支援を頂いているお蔭です。お世話になっているすべての方々のお名前を挙げることはできませんが、東山区役所をはじめ関係機関、ならびに本学の関係部門である学部事務センターを始め、学生生活センター・入学センター・施設課など、事務部門の皆様には、お忙しい中、栄養クリニックを支えてくださり、ありがとうございました。末筆にて恐縮ですが一言御礼申し上げます。

新年度も引き続き、皆様からのご支援を賜りますようお願い申し上げて、巻頭のご挨拶とさせていただきます。

平成22年3月1日

京都女子大学栄養クリニック長
田 中 清